



仁木町 ～未来へつなく教育の創造をめざして～ 教育委員会ニュース



祝 優勝！北海道少年野球チームの頂点に



笑顔で優勝カップと優勝旗を掲げる仁木野球スポーツ少年団員

7月15日（土）から17日（月・祝）までの3日間、旭川ドリームスタジアムほかにおいて、第38回スタルヒン杯争奪全道スポーツ少年団軟式野球交流大会兼第32回北海道スポーツ少年団軟式野

球交流大会（第39回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会北海道予選会）が開催され、仁木野球スポーツ少年団が出場、見事初優勝を果たしました。

本大会は各地区予選を勝ち抜いた道内16チームによるトーナメント戦で行われ、その頂点に立つ1チームだけが全国大会へ進むことができます。

激戦を制し全道王者となった仁木野球スポーツ少年団は、8月3日（木）から6日（日）までの4日間、宮城県において開催される第39回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会に北海道代表として出場します。



輝いた！選手18人！

後志地区代表 初めての栄冠

過去37回の大会において、後志地区のチームは第10回大会に岩内町のチームが準優勝を収めたのが最高位で、これまで

に優勝したチームはありませんでした。今回の仁木野球スポーツ少年団の優勝は、後志地区のチームとしても初の快挙であり、大都市圏ではなくともチームが団結すれば強豪チームに打ち勝つことができるということを証明してくれました。

仁木野球スポーツ少年団 全国大会出発式

日時 8月2日（水）午前9時

場所 仁木町役場庁舎前

皆さんでチームにエールを送りましょう！



全国大会へ！仁木野球スポーツ少年団

決勝戦はサヨナラ!

初戦の別保イーグルススポーツ少年団(釧路)戦は、打線が繋がり8対4で快勝。2回戦は北見ピクトリースポーツ少年団(網走)と対戦し、山北選手が左中間を抜かれた当たりを好送球で2塁アウトにするなどの好守もあり、5対3で勝利。新十津川ホワイトベアーズスポーツ少年団(空知)との準決勝は、終盤に粘りを見せられるも5対4で勝利しました。

決勝戦は千歳ガッツ野球スポーツ少年団(石狩)

と対戦。序盤から点の取り合いとなる試合展開となりました。

2点リードで迎えた6回に同点とされ、7回からはノーアウト満塁の状況から1イニングを行い得点の多いチームを勝ちとする「タイブレーク方式」で試合を進めることになりました。7回表、相手チームの猛攻を受け4点を失ってしまいますが、裏の攻撃で山下主将を中心とした最後まであきらめないプレーで4点を取り返し、再びタイブレークに!

8回表に2点を失うもその裏再び反撃し3点を奪い、サヨナラ勝利で初優勝を果たしました。



活躍した選手たちの声と想い

少年団最終年となる6年生5人に全道大会の感想や全国大会へ向けての抱負をいただきました。

【山下 主将】規定により全国大会ではメンバー登録できない低学年の団員の思いを持って勝ち進んで全国優勝。

【関 選手】まさか優勝するとは思わなかった。最後のタイブレークは、とても緊張した。全国大会では絶対に優勝したいです。

【山北 選手】全国大会には強いチームがたくさんいるけど、仁木野球スポー

ツ少年団のモットーである「元気」では負けないようにしたい。

【鶴田 選手】全道大会では特に目立つ活躍をしたわけではないので、全国大会ではもっとチームに貢献できるように頑張りたいです。

【友行 選手】全道大会の初戦に勝ったときは本当に嬉しかった。決勝戦はすぐドキドキした。全国大会では次の目標である全国制覇をしたい。

【関 雅樹 監督】全道大会は1回戦から決勝戦まで全ての試合が紙一重の勝負でした。特に決勝

6年生の選手

右から

ともゆき そなた

友行 颯大

選手(仁木小)

関 辰之助

選手(仁木小)

山下 佑夢

主将(銀山小)

山北 大志

選手(仁木小)

鶴田 創良

選手(仁木小)

戦は延長戦となり、ノーアウト満塁のタイブレークに突入、どちらが勝ってもおかしな試合になりました。でも最後には、これまでの選手中みんなの努力と「勝ちたい」という思いが相手チームより勝っていたことが、全道大会優勝という偉業を成し遂げたと思います。



関 雅樹 監督

今回活躍した選手は、今、自分のできることを考え、行動してくれた選手18人全員です。小さな町の小さな少年団が大きな結果を残せたことは監督として子ども達を誇りに思います。「ここまで多くの方々に支えられてきたことに感謝し、そして一緒に戦った対戦チームの球友達の想いを抱いて全国大会で戦ってきます。」「目指すは全国制覇」新たな目標に向かって「自分を信じて、仲間を信じて」。

関 辰之助 選手 打撃賞第三位
友行 颯大 選手

